

保護犬の命を守る

～処分ゼロを目指して～

DEレポート No. 60

2025年10月

作成者:J.I

 脱炭素経営ドットコム

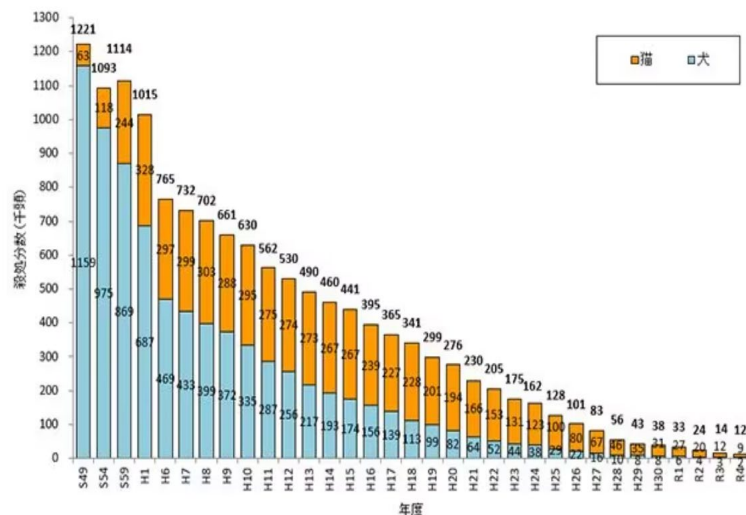
By DENKOSHA



■ 殺処分の現状

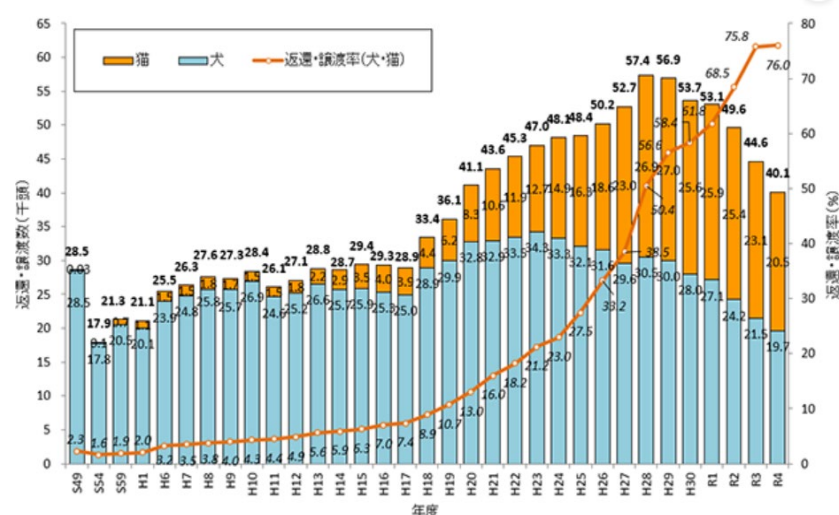
- 日本国内の犬の殺処分数は年々減少し、その反面保護された犬の譲渡・返還率は増加しているものの、今でも年間約2400頭の犬が殺処分されている(2022年度)
- 殺処分の背景として飼い主の身勝手な飼育放棄、悪質なペットショップ・ブリーダーによる無計画な繁殖活動により保健所に保護される犬が後を絶たないことが原因として挙げられる
- 殺処分が続くことで、動物福祉に対する関心が薄れていく危険性(何をしても殺処分は無くならないという諦めが変わる)や殺処分数が減らないことによる地方自治体、動物愛護団体の費用負担の増加など悪影響がある

■ 犬・猫の殺処分数の推移(昭和49年～令和4年)



出典:環境省

■ 犬・猫の返還・譲渡数の推移(昭和49年～令和4年)



出典:環境省

さらに殺処分数を減らすために

■ 様々な取り組み

- 殺処分削減のため、動物愛護管理法もたびたび改正されており、近年では販売業者に販売する犬猫へのマイクロチップ登録が義務化され、従業員1人当たりの飼育頭数の上限規制も設けられている
- 個人としての活動はハードルが高いように思えるが、動物愛護団体への寄付等、さまざまな形で殺処分削減に貢献できる

例えば、特定非営利活動法人「ピースウィンズ・ジャパン」が運営する「ピースワンコジャパン」へ、1ヵ月1000円(1日33円)からの寄付や、ふるさと納税を利用した寄付ピースワンコジャパンも可能。同団体は2010年に広島県で活動を開始し、2016年には同県にて犬の殺処分数ゼロを実現している。
 また、公益社団法人「アニマル・ドネーション」が運営する寄付サイト「アニドネ」では、独自の審査を通過した全国45の動物関連団体へ寄付が可能である。
- しかし、飼い主1人1人の責任感の欠如、営利目的で無責任な繁殖を繰り返すブリーダーが無くならない限り殺処分はゼロにならない。
→ 愛護センターで引き取られる犬の約90%が飼い主不明

■ 広島県の犬猫の殺処分数(令和5年度)

令和5年度

殺処分の内訳

	環境省分類			計
	①	②	③	
犬	45	0	14	59
猫	23	0	13	36
計	68	0	27	95

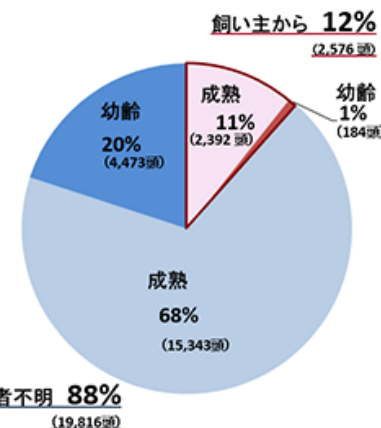
- ① 譲渡することが適切ではない（治療見込みがない病気や攻撃性がある等）
 ② ①以外の殺処分
 ③ 引取後の死亡

※殺処分は全て薬物注射による安楽死

出典：広島県

■ 犬の引取り数内訳(令和4年度)

犬の引取り数内訳



出典：環境省

殺処分ゼロは実現可能なのか？

■ 残る課題と展望

- 先に挙げた飼育頭数の上限規制は今後も規制が厳しくなる可能性があり、一見殺処分削減に対して効果的と感じるが、善良なブリーダーも飼育頭数を減らす必要があり、そういったブリーダーの経営が成り立たないケースが出てくると予想される。
また、上限規制が適応されるタイミングで飼育頭数が上限を超えている場合は、上限以下まで頭数を削減する必要があるため、無暗に上限を規制すればよいという訳ではない
- 保護される犬の大多数が所有者不明という現状から、飼い主一人一人もペットを飼うということに責任を持つことが重要
- 善良なブリーダーを守るため、何より殺処分ゼロを実現するために、悪質なブリーダー・ペットショップの取り締まりを強化するとともに、人間の都合で死んでいく命があるということに国民一人一人が関心を持つことで、殺処分ゼロは実現できると考える

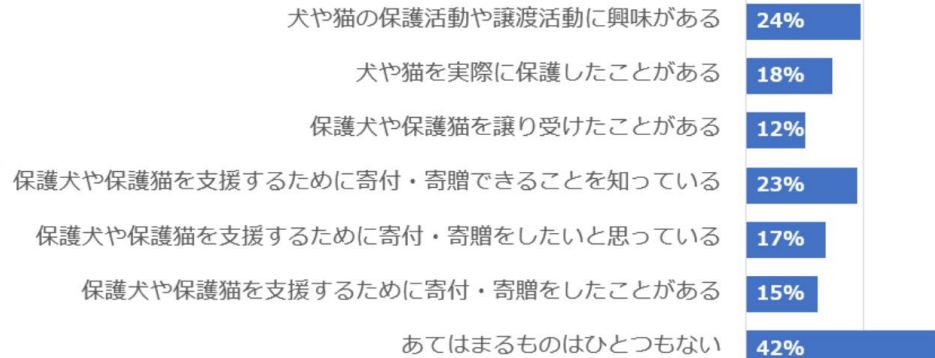
■ 犬・猫の保護活動への関心度・参加度に関するアンケート

犬や猫に関して、あてはまるものをすべてお選びください（複数回答）

0% 25% 50%

保護・譲渡

寄付・寄贈



出典：公益社団法人アニマル・ドネーション

■ 人と犬のより良い関係性の構築



出典：Unsplash

人にとっても犬にとっても暮らしやすい社会になることを求めている

■ 参照・引用資料

- 環境省 統計資料「犬・猫の引取り及び負傷動物の収容状況」「動物の愛護と適切な管理」2024年11月22日
(https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html)
- gooddo_【年間2400頭】犬の殺処分の現状とゼロを目指す活動、私たちにできること_2024年11月22日
(https://gooddo.jp/magazine/animal_protection/36574/)
- ピースワンコ・ジャパン_日本の犬を殺処分ゼロへ_2024年11月22日
(<https://wanko.peace-winds.org/>)
- 公益社団法人アニマル・ドネーション_寄付で広げる犬猫の未来ー確かな団体選定のアニドネ_2024年12月14日
(<https://www.animaldonation.org/>)



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」を うまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「CO₂」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DEレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電 気 の コ ン シ ェ ル ジ ュ

DENKOSHA

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DEレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。